

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6番31号		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①入居者は6名で個人の意思が尊重され家庭的な雰囲気の中で自由に和やかにゆったりと生活できます。</p> <p>②同法人内の医療機関(帯山中央病院)が隣接しているため、救急時や病状悪化時などの対応がスムーズにでき、安心できます。</p> <p>③町内や法人内の行事・イベント等に参加し、生活の活性化が図れます。</p> <p>④認知症対応型通所介護(共用型)も実施しており、ホームはとも明るくにぎやかで体操やレクリエーションを活発に実施しています。</p> <p>⑤認知症の進行を遅らせたり予防する効果が注目されている「臨床美術」を積極的に取り入れ、作品制作の楽しみ、達成感や勿論、その過程である色・形・道具選びなどを通して認知症の方の判断能力や集中力の維持に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者を中心にこの一年部署目標や個人目標達成に真摯に取り組んでいる。家族との関係性に視点にした活動や、地域との交流促進、業務見直しや職員の知識とケア向上等へ向けた成果が和やかな生活等に表出している。地域の中での確固たる基盤が作られ、地域に出かける事で認知症ケア啓発の一環としている。日常生活に加え、臨床美術や折り紙ボランティア、映写会(社協ボランティア)等アクティビティも充実し、残存能力の維持・発揮及び自信回復や認知症進行防止として生かされている。職員の寄り添いのケアによる出来る事の発掘や環境整備が認知症状の軽減として生かされ、職員の健康管理やチームケアにより入居者の入替りも無く、得意分野を發揮した生活及び入居者同士の労りのある日常は職員の笑顔での支援の賜物であり、一層家庭的な雰囲気を深めたホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見やすい場所へ理念を掲示する事で意識付けをしている。年頭に理念に基づいた個人目標を立て、理念がケアの拠り所となるようにしている。法人の人事考課制度の中にも理念の実践を組入れ、定期的に評価できるようにしている。	玄関や共有空間での掲示により、職員のみならず利用者及び訪問者への啓発の一環とし、スタッフミーティングの中で理念を想起させながら話し合っている。また、業務・マニュアルの見直しや知識とケア向上に研修会を充実すること等を部署目標におき、職員個々が理念を基にした個人目標を立て、半年毎に評価する等理念をケアの原点として捉えている。理念の一つである“入居者の残存能力を引出し、発揮・維持出来る環境の提供”は日常生活に加え、臨床美術や折り紙ボランティアの継続等により実現させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買物・理容等は地域の商店・理美容院を利用し、運動会・夏祭り・防災訓練等の町内行事に利用者と共に積極的に参加し、地域の方と交流している。回覧版のやり取りや町内ボランティアの来訪等もある。(10月から隣保組長も担当)今年も入居者の作品を町内の文化祭へ出品した。	入居者にとってはこの地・場所を地域として捉え、日常の地域での買い物その他、回覧版により地域行事をリサーチしながら多岐に亘って参加しており、地域の中で充実した生活を支援している。校区の防災訓練や、町内の文化祭への作品展示・ボランティア(町内のみゆき会により折り紙や社協ボランティアによる映写会等)継続して取り組み、隣保組長を担う等職員も地区の一員として活動し、地域に向くことでホーム及び認知症ケア啓発の一環としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会・老人会・民生委員の方々に認知症についての知識や対応要領等について説明助言を行っている。また、見学や入居申し込みに来られた方に対して、介護相談に対応したりしている。校区防災訓練では要請があり、救急法展示を町内の方と共に実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議では、運営方針・サービス状況・入居者の状態報告や活動内容等を報告し、情報・意見交換を行っている。(写真・資料を活用)委員の意見をサービス向上に活かしている。今年度より会議後に昼食会を実施し、会議参加者と利用者との交流も促進している。	定期的開催する運営推進会議は、視覚を通じた行事等の活動報告や実施指導・職員の入退職等を報告し、質疑応答・意見交換を行っている。地域行事リサーチの場や委員の提案及び家族の要望等の収集の場として生かされている。また、昼食会を組み入れる等、新たな取り組みが家族や参加委員との交流促進に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員の参加があり、意見交換し情報を得ている。また、毎月介護相談支援員の訪問時意見交換を行い、ケアに反映させている。今年度は、市の実地指導があり業務の確認指導をいただいた。特に施設ケアマネ業務について具体的な助言をいただきすぐに業務に反映が出来た。	集団指導への参加や、電話による報告書提出の手順確認、市からのアンケート調査や増床に向けたヒヤリング等行政と密な連絡を取り合う等協力関係を築いている。実地指導をケアプラン作成に反映させたり、介護相談員制度を採用し訪問時の意見交換や報告書をケアサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会に参加しホーム内勉強会で教育実施、身体拘束をしないケアについて再確認し各人の意識を高めている。昼間施設玄関の施錠は行なっておらず、自由に入出りできる環境にある。	身体拘束廃止に向けた理念と指針を掲げ、ホーム内外の研修に参加し、拘束の無いケアに向け全員が再確認している。管理者は車椅子も移動手段であるとして車椅子から移乗した生活を支援するよう指導している。玄関や居室等施錠も無く、自由な環境である。入居者は落ち着いて生活されているものの、帰宅願望は否めず、「帰りたい」との思いに応え、随時外に出る事を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の外部研修参加やホーム内勉強会を行い意識の統一を図っている。職員同士で情報交換を行ったり、利用者の全身状態の観察や状態変化に注意し、虐待が見過ごされない様にしている。また、職員自身がストレスをため込まない様に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用されている利用者が1名おられるが、後見人の方とは調整を密に行い、不明点がないようにスタッフ全員がよく確認しながら対応している。成年後見制度について資料を基に知識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、相手の年齢や理解度に応じた分かりやすい説明を心掛け、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。消費税引き上げに伴う利用料改訂では補足説明資料を作成し、「重要事項説明書」に同意をいただいた。説明は主に管理者が実施しているが、変更内容はスタッフも周知させ問合せにも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し定期的に確認している。介護相談支援員の訪問時には利用者の意見を確認し運営の参考にしている。家族へは運営推進会議参加時やケアプラン説明時、面会時等に直接意見要望等を確認している。家族へのお便りを毎月郵送(手渡し)し、その中で利用者の1か月間の様子をお伝えしたり、行事の写真を入れ、ホームを身近に感じて頂けるように工夫している。利用者の写真を編集し利用者、家族に渡している。外出先は利用者の希望を考慮している。家族同士の交流ができるように、行事年間予定をお知らせし、昼食会を定期的を実施するようにした。	家族の置かれた立場を考慮し、意見が出し易いよう玄関先の苦情受付用紙を見直している。家族の訪問時に意見や要望等を収集し、家族の些細な要望等も申し送りノートによる共有化や、苦情受付として記録し一つひとつ精査することとしている。今年は家族との関係性を視点に置き、年間活動予定の配布や、個別に手紙による情報発信、また運営推進会議を問題提起及び家族同士の交流の機会としている。入居者は職員に要望等気軽に申し出られており、「〇〇に行きたい」等に柔軟に応じている。	家族からの要望等の申し出は少ないようである。家族との交流促進に取り組みされており、今後も家族とのコミュニケーションを図り、忌憚りの無い要望等を収集しホーム運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや日常の会話等から職員の意見提案を確認し、法人内の介護関連会議において意見を出したり、介護事業部長や関係部署へ直接意見具申している。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案等を聞き、必要な物品等法人に上申し、毎月のミーティング等も職員の提案等を出す機会としている。毎月法人の介護事業部の会議で各事業所の問題点等の話し合いは法人として運営を考える機会となる等法人全体が連携を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織の活性化と人材育成のため、法人内で人事考課制度が導入されている。(まだ定着していない。)勤務時間の見直し、各業務内容の精査・整理を実施し、業務負担の偏りや過度な残業が発生しない様にしている。勤務割りは、スタッフの希望に可能なかぎり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を職員に広く広報し、院内研修や外部研修の機会を作っている。スタッフの交代等ありホーム内勉強会や能力に応じた体系的な教育が不十分であり、教育計画を再検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や県の連絡会に入会しており、積極的に情報収集したり研修会に参加している。また、同じ建物内にある有料老人ホーム職員との交流や、連携を図っている病院の相談員・介護支援専門員との交流の機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人や家族に心身の状況や希望を確認し、できるだけ本人の意向に沿った対応を心掛けている。本人が安心して生活できるように、必要時は家族の面会などの協力もお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合い、要望や不安に思っていることを理解し、ケアの方向性を考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況や希望をじっくり聞き、幅広く必要な支援を検討する。その際、幅広く専門医や、他サービス支援についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自主性を尊重した上で、食器洗い・洗濯干し・洗濯たたみなど、できる事をみんなで行う雰囲気作りをしている。職員と利用者は介護する・される関係だけではなく目線を同じくするよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族の存在、支援はかけがえないものだということを常に念頭に置き、また、家族にも伝え、共に支えて行く関係作りを心掛けている。家族へのお便りを毎月郵送し、その中で利用者の1か月間の様子をお伝えしたり、行事の写真を入れ、ホームを身近に感じて頂けるように工夫している。家族の事情も考慮し疎遠な家族へもあきらめずに対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問・定期的な家族との外出・外泊や、行きつけの理美容院の利用など家族の協力を得ながら支援している。また、年賀状や暑中見舞いなどの交流が継続できるように支援している。	理美容院の継続や家族の祝い事に出かけたり、年末・年始の外出等家族の協力を得ながら支援している。家族や知人への暑中見舞いや年賀状等も継続し、地域住民との関係や入居者同士も馴染みの関係性にある。日記を書き続ける方や編み物・縫い物をされる方、手帳と筆記具を用意する等、これまでの生活環境や趣味等も継続されている。	入居者の「出身地に帰ってみようか」の声に応え、家族に代弁いただき、協力を得ながら支援できるよう検討いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やかかわりを観察、見守りを行い、効果的な席替えを検討したり、家事手伝いの分担など自然な形でお互い認め合える関係が生まれるようにサポートしている。利用者同士でトラブルになりそうな時は、スタッフが間に入りトラブルを回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中なども訪問し本人を励ましたり、家族と情報交換を行い精神的な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の発する言葉や表情、行動に留意し、また、本人とよく会話し、否定的な言葉は使わずに本人の望まれている事の把握に努めている。利用者の思いや意向は、ミーティング等でスタッフ全員が共有できるようにしている。	入居者を認知症としてばかりではなく、多角的に見て全てを受け止めている。毎日の暮らしの中の行動や会話から本人の望み・思いを推察し、日々気づいたことはその都度の話し合いやカルテの中に記録し共有化としている。また、難聴者には大きな声で話しかけ、返事がないときには表情で把握し、ケアに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの聞き取りで把握し、親戚や友人の訪問時等に情報を把握し、これまでの生活の継続ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、休養、活動、睡眠、一日の過ごし方等個人個人の状況や気付きを日々の記録に残し、スタッフ間で情報交換し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を盛り込んでプランを作成している。必要時プランを追加したり変更を行っている。スタッフミーティングでは入居者全員の状態について検討し、意見やアイデアを取り入れている。3ヶ月ごとのモニタリングでプランの評価をしている。	毎月のカンファレンスによる職員の気づき等をもとにした話し合いや、3ヶ月毎のモニタリングにより変更や継続を見極め、朱書きにより追加している。また、半年毎の見直し及び退院日には家族及び職員と話し合い、まずは暫定プランを作成、様子観察の期間を設け新たなプランを作成している。入居者及び家族の要望等を踏まえ、現状に即した詳細なサービス内容、具体的なプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化について、個別の生活記録や申し送りノートで状態把握に努め、情報を共有し実践を行っている。記録内容に不備不足がある場合は、管理者・主任等が適宜修正助言している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行を抑えるために、臨床美術を積極的に実施している。リハビリの必要な利用者は同法人内でリハビリを受けている。訪問歯科や訪問理容も希望に合わせて実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容院、花屋、スーパー、お茶屋などの利用を行い、ホーム周辺を散歩コースとしている。また、町内文化祭への入居者作品の出品展示や、社協・老人会等のボランティアの訪問、法人内行事、ホームでの定期的昼食会等で地域の方々とのふれあいの機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による月2回の訪問診療及び臨時の外来受診、緊急時の24時間の往診態勢、訪問歯科の利用など、安心できる医療環境を提供するとともに、専門医等への通院への支援も実施し、本人及び家族の希望の医療が受けられるように支援している。	隣接する母体医療機関を全員がかかりつけ医とされており、月2回の訪問診療や体調変化時の対応等連携した取り組みが入居者や職員にとっての安心感となっている。訪問診療時の家族の同席や、皮膚科・眼科等の家族対応での受診、訪問歯科の利用等、入居者・家族の希望する受診が出来るように支援しており、職員は日常の健康管理により異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、看護師との24時間連絡体制にあり、入居者の身体の異常、病状悪化時は適宜報告し病状把握を行い適切に病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人や他の病院へ入院された場合、病院や家族との情報交換を密に行い、早期退院に向け支援している。法人内地域医療連携室との連携が十分に機能し入退院への対応が円滑になった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針、事前指定書を説明し確認している。病状が重度化した場合は、状況に合わせ家族・医師・看護師・関係者と早期に話し合いを行い方針を決め支援している。	母体医療機関との24時間連携体制を図り、入居時に重度化時のホームでの対応指針を説明し、事前指定書で急変時を含めた本人・家族の意向を確認している。状態変化時は医師を交え対応を話し合う事としており、現在の時点では医療との連携によりホームでの看取りは行われていない。今後は職員研修等に取り組みスキルの強化を図っていきたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制、AEDの操作要領等処置の方法など勉強会で訓練を行っている。入職者へは個別に訓練を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練と消防署立会いの消防訓練を年2回行っている。また、入居者とともに町内の防災訓練に参加している。緊急連絡体制として「火災一斉メールシステム」を導入している。飲料水等の備蓄物品を見直し整備している。	年2回の火災避難訓練を実施すると共に、町内の防災訓練には入居者も交代で参加している。一斉メールシステムの法人での取り組みの他にも地区の防災組織とも緊急連絡網等で連携しており、非常時の避難場所を確認している。今年は台風の接近もあり、備品や備蓄を見直している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼節と尊厳をもって言葉をかけたり対応するように心がけ、個人の人格を損なう事のない様に接している。不適切な言葉遣いは互いに注意しあっている。排泄・入浴時には羞恥心に配慮し声掛けを行っている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努め、親しみを込めた話しかけが馴れ合いとなる事もあり、気付いた時は職員間で注意喚起し合う環境を作っている。又、トイレ誘導時等は他の入居者にも配慮し、さり気なく対応している。個人情報取り扱いに注意を払い、外部への作品出品等にも了解を得、職員の守秘義務については入職時に誓約を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しぐさや表情等の言葉以外の表現にも留意している。家事作業、散歩、レクリエーション等は本人に確認してから実施している。確認時の問いかけは選択肢を投げかけ本人が決定できるような聞き方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調を確認し、日中の体操やレクリエーション等への参加を強制しないようにしている。また、午睡や入眠・起床時間も本人の体調や様子に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容院への外出や訪問理容の利用、化粧のアドバイス、着替えの私服選び等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや食卓テーブル拭き、箸の準備、車いすの人でもできる「もやしの根きり」「小鉢への取分け」、食後の食器拭き等を、利用者ごとのできる力に合わせ分担して実施している。業者への食材発注システムや調理専門のパートスタッフの導入で、業務の効率化が図られ利用者に接する時間が増えている。	業者による献立に合わせた食材の配達を採用し、献立については業者との意見交換を行い入居者の好みを反映させている。入居者も下ごしらえや食器拭き等に関わり、リビングと一体となった台所で職員と会話しながら食事準備をしたり一緒に食事を摂っている。外食が食思意欲につながったり、手作りおやつや行事食(クリスマス会等)も楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・飲水量のチェック、体重測定等により栄養状態の把握をし、利用者の状況により栄養補助食品の利用や、刻み・トロミ・ミキサー食、お茶ゼリー・手作りポカリ等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアについては徹底して実施している。本人に磨いていただき、その後磨き残しがないか口腔内を観察し仕上げ磨きを行っている。必要時には訪問歯科の診療やケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録把握し、排泄誘導を行いトイレでの排泄ができるように支援している。昼夜別にオムツの使い分けを実施している。	個々のパターンを把握し、時間を見た声かけでトイレに誘導している。又、失敗等も考慮しながら排泄用品を検討したり、昼夜での使い分けで安眠にも配慮している。退院間もない方も立位保持に取り組み、日中はトイレでの排泄で自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量を把握し排便・尿を24時間チェック、好みの飲み物や乳製品などで工夫している。便秘時はマッサージや廊下歩行を促し、必要時は医師の指示にて緩下剤の与薬支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目途に入浴予定は各個人ごと決めているが、利用者の希望やその時々で時間や曜日を変えたりしている。身体状況により1人ないし2人で介助している。入浴剤等を利用しリラックスして入浴されるよう配慮している。	入居者の希望や体調に合わせ、個々のシャンプー等を準備しながら寛いだ入浴に努めている。高齢化や重度化でシャワーチェアを利用しながら、必要時は二人介助で対応する等安心して安全な支援とし、拒否時には時間を変更したり翌日に支援する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望を伺い昼間でも休息して頂いているが、できるだけ日中は活動性を高め、夜間の安眠、良眠に心がけている。個々に合わせた運動量の確保や生活リズムを考え対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書で内容を確認理解し、「内服介助マニュアル」を厳守し誤薬防止に努めている。内服変更時は、変更内容を記録で共有し、症状観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を確認し本人の得意なことや好きな事を把握し、場面作りを行うようにしている。実際に生け花、習字、編み物や、歌、饅頭作りなどに反映されている。また、年間行事として外出・外食、誕生会やクリスマス会等計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣・花見・紅葉狩り等季節を感じて頂く外出や、近所への買い物、外食、ご家族付き添いによる受診等、家族の協力も頂きながら支援している。	近隣のお地藏さんまで散歩したり、商店での買い物等、入居者の希望も聞き取りながら支援しており、外出行事として季節毎の花見や地域行事などに出かけている。又、家族との外出や買い物等に協力が得られており、祝い事に出かけられる方等、今出来る支援に共に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の買い物は職員が預り金で実施しているが、本人が買い物に出かけた際は、自分で支払いをされるように支援している。頭かき金の管理については、「金銭出納管理委託契約書」を取り交わしたうえで実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	建物内に公衆電話があり、希望時電話使用への支援も実施している。家族・友人へ暑中見舞いや年賀状を書かれるの促したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は間接照明とし、落ち着いた雰囲気となるように配慮している。エアコンでの空調調整はこまめに実施。狭い空間ではあるが、テーブルや壁には、季節の花や行事の飾りつけを行い、季節感が味わえるようにしている。特に臨床美術の作品展示は「刺激的な」良い空間づくりとなっている。トイレ洗面所は清掃を適宜実施し常に清潔で気持ち良く使用できるよう配慮している。	病院裏手の静かな住宅地の中にあり、ホーム内には入居者の臨床美術作品を掲示し、華美とまらないような飾り付けや花などで季節感に配慮している。入居者の入れ替わりもなく穏やかな日常となっており、環境が入居者に与える影響についても考慮しながら整理整頓など環境を整備している。ゆっくりとソファで過ごされたり、テーブル配置も身体状況や相性に合わせ、こまめに清掃や空調管理され居心地良く入居者にとって落ち着いた場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない利用者同士の椅子の位置を離したり、気の合った同士でテーブルを一緒にできるよう、テーブルの配置等工夫している。自由に座れるソファを設置している。利用者は自由に吐く-と居室を行き来できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話し合い、使い慣れた筆筒や家族写真、入居後に作成した臨床美術の作品を置き、これまでの生活の継続と安心して穏やかに居心地良く生活できるよう支援している。	畳敷きの部屋を身体状況によりフローリングにする等、本人にとって安全で居心地良い様に改善している。其々の居室には家具やテレビ・化粧品等思い思いの品物が持ち込まれ、自分や家族写真・作品等を飾り、家族や職員と一緒に居室作りや衣替え等に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわからなくなる人にも判るよう、はっきりとした文字でのトイレ表示。バリアフリーで手すりを設置し、移動の動線に障害物を置かないようしている。		